

阪神淡路大震災

から30年



城東区マスコットキャラクター「コスモちゃん」

一人ひとりに
できること

今年が阪神淡路大震災から30年の節目の年です。この地震は、日本の大都市圏を襲った直下型地震の中では最大規模で、**死者約6,400名、負傷者約4万3,700名**に上る人的被害をもたらしました。

この大阪でも、今後発生すると予測される**南海トラフ巨大地震**や、**上町断層帯地震**などの大きな地震に備えておく必要があります。

未曾有の大地震から30年を経て、これまでの地震被害から得た教訓や、地震の備えを見直すきっかけとして考えていきましょう。

映像が伝える 教訓

30年という月日の経過により記憶や教訓の風化が危惧される中で、朝日放送などが残した当時の震災映像から、あの時の教訓を改めて学び、これからの災害の備えへと活かしましょう。

二次元コードを読み込むと映像が見れるホームページへと移動します。



約40時間分・2,200クリップ収録

ABC 阪神淡路大震災取材映像アーカイブ

足りない食料

1月17日発災当時の避難者の声



不足する物資

水や物資を得るのに一苦労



散乱する部屋 倒れた家具

被災直後の住宅のようす



第5回 防災サミットを開催しました<6月7日(土)>

城東スギタクレストホールでは、『阪神淡路大震災から30年』をテーマに、当時の映像を交えながら、大災害が発生した際に困ることや備えについて、大阪公立大学教授 生田氏と、(株)エー・ビー・シーリブラ 木戸氏のお二人にご講演いただきました。

蒲生公園では、自衛隊・国土交通省・城東警察署・城東消防署・建設局・環境局にご協力いただき、特殊車両の乗車体験やマンホールトイレの展示を行いました。



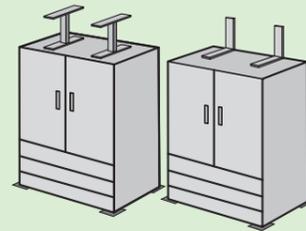
(講演会映像)



家具の固定

阪神淡路大震災による死者の9割以上は死亡推定時刻が発災当日の午前6時までとなり、死因のほとんどは、家屋の倒壊や家具などの転倒による圧迫死、窒息死だったとされています。

可能な限り、家具を金具で固定する等揺れによる転倒を防ぐようにしましょう。



水・食料・トイレの備え

地震が発生すると、断水・停電などインフラ面に被害がおよびます。阪神淡路大震災では発災後すぐ、飲料水や食料が不足し、物資の配給や給水に人が押し寄せ長蛇の列となりました。

被害が広範囲にわたる南海トラフ巨大地震が発生すると、自衛隊や他市町村からの十分な救援は望めません。

最低3日分、できれば7日分の備蓄を！



家族と事前に相談しましょう

大きな地震が発生すると、多くの人が家族や友人の安否を確認するため電話をかけますが、それにより回線が混み合い、連絡がつきにくくなります。このような場合に備えて、あらかじめ避難先や集合場所を家族間で共有し、非常時のルールなどを相談しておきましょう。



災害時の在宅避難のススメ

災害時の城東区内避難所受入可能人数は約43,300人であり、城東区民約168,900人に対しては、約4人に1人の割合となります。状況によっては、大災害時の避難所はすし詰めになります。自宅が無事なら、在宅避難の方が、プライバシーの確保や、感染症のリスクが避けられます。一人ひとりで事前に準備して、可能な限り在宅避難できるようにしましょう。

大地震が起きたら私たちはどうなる？

子どもたちにアーカイブを見て学んでほしいけれど、過酷な状況が映る映像は、心に負担を与える恐れもある…。そんな時に、被害よりも避難生活の教訓に注目して動画を集めたe-ラーニングサイト「大地震が起きたら私たちはどうなる？」が開設されています。

「避難所」「食料」「水」「トイレ」など、子どもの視点でも学べるような構成となっています。ぜひご覧ください。



(朝日放送 e-ラーニングサイト)

防災士養成講座 受講生募集

城東区の地域防災力向上のため、区民の方を対象に防災士養成講座を実施します。自分や家族の大切な命を守るための知識を学べる場となります。ぜひご応募ください！

詳細は「ふれあい城東(9月号)」や区ホームページでお知らせします。